

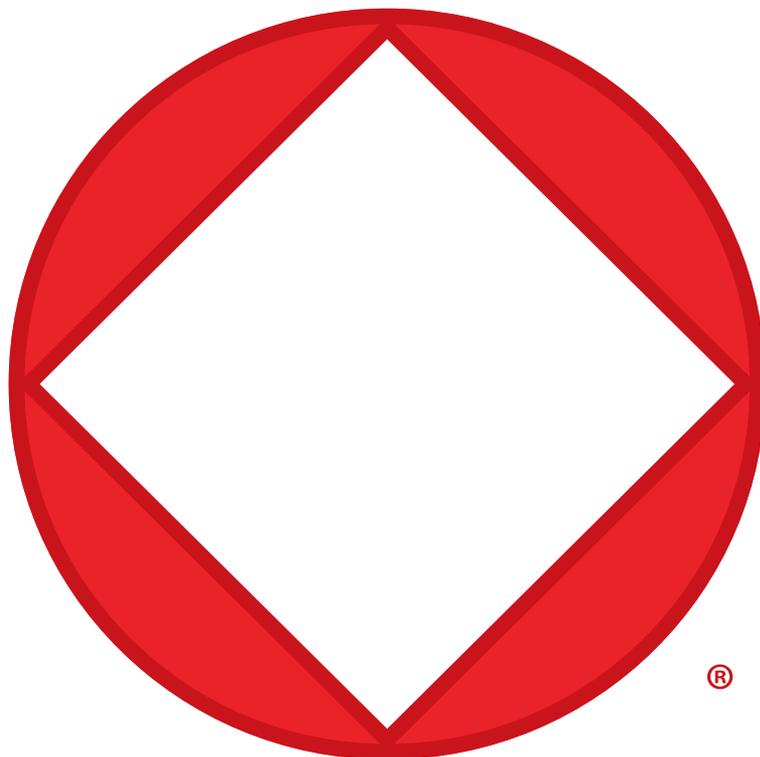


世界中で読まれているNAの定期刊行物



2018年1月発行
第35号 ◆ 1号

I



INAA

• 回復の道で歳を重ねる

• WCNA 37 最新情報

• NAの

メッセージを翻訳する



世界中で
読まれている
NAの定期刊行

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ペルシャ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのももちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのを待ちしている。この年に4回発行される定期刊行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいいない。また、インターネットからNA Way マガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

NA Way マガジン2017年1月号では、この「編集者からひとこと」をはじめとするいくつかの記事で、現実を受けとめて生きるという考え方をとりあげた。それから1年して、こちらにはまた、現実を受けとめて生きることの喜びや苦労を映し出す投稿がたくさん寄せられた。それによって、メンバーたちの多くが回復の道で老いていくという課題に取り組んでいることがわかる。今月号の『特集記事』になっているのは、昨年1月号に掲載された「生きていくということ」の後日談である。そして、『わかちあい』では絶望や、恐れや、挫折から、理解や、安心や、希望にまつわるものまで、メンバーたちがさまざまな経験を語っている。

さらに今月号では、刺激的で得るところの多いフェローシップディベロップメントと翻訳に関する取り組みがいくつか紹介されているほか、WCNA 37に関する最新情報があり、『グループ紹介』にはベーシックテキストに関する感動的な写真が2点ほど添えられている。そして、[インターネット版のNA Way マガジン](http://www.naway.org)を購読しているみなさんには、紙面のリンクによる追加記事が用意されている。また、www.naway.orgにはNA Way マガジンのバンクナンバーが揃っているので、インターネット版を購読していなくても、これまでに掲載された記事がだれでも読めるようになっている。

今年も、NA Way マガジンを読んで、よい年になりますように！

[ド・J \(エディター\)](#)

今月号の掲載記事

特集記事	3	グループ紹介	9
・ 転機の訪れ		フェローシップディベロップメント	10
ベーシック・キャプション・コンテスト	4	サービスセンター	13
わかちあい	5	WCNA 37	16
・ 回復の道で歳を重ねる		Calendar	17
・ スポンサーシップ		NAWS Product Update	18
・ 51年を過ぎてなお、旅にある		Coming Soon	20
・ 痛みの処方箋			
・ スポンサーがリラプスしたら			

電子版はここをクリックすると追加のコンテンツを見られます。

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。



転機の訪れ

1年前。俺は、初めて使うのをやめてから40回目の記念日を迎えようとしていた。

1年前。俺は住む家もなく、毎晩深夜勤務をこなして、経済的な不安を抱えていた。「現実」はきびしかった。絶望しきって、希望など心のほんの片すみで縮こまっていた。それは自分の境遇によるもの、つまり住所不定の生活が辛いということもあった。だが、それ以上に、機会はいくらでもあったのに経済観念を身につけようとする努力を怠ったからだった。俺は、記念日を楽しみにするどころじゃなかった。このまま手をこまねているわけにはいかないだろう、やれることがあるはずだ、と思った。

そもそも、俺が絶望に屈するのをとどまらせてくれているものは何なのか。それについて棚卸をすると、7つのことがわかった。クリーンで生きた時間が自分を支えてくれたこと。NAの文献に記されている経験をメッセージ。古きも新しきも、自分には仲間がいること。サービス。NAのステップ。NAのミーティング。そして、NAの仲間たちと心をひとつにすることだ。これだけは全部、それが無理でもいくつかは、せめてひとつだけでも毎日取り組もうと、俺は努力するようになった。

それからどうなったか、簡単にいうと「転機」が訪れたのだ。定住するところがあった。まじな仕事に就く道が開けた。昼間に働けば、暮らしていけるだけの収入が得られる。孤独感がだいぶ取りのぞかれた。暮らし向きが変わっていくなかで、いちばん助けになったことが2つあった。

ひとつは、居心地のいいホームができたこと。このグループにいると、俺は支えられ、励まされ、はっぱをかけられ、叱ってもらえる。そして何より、大事にもらえる。初めて参加したミーティングで、当時の俺が抱えていた人生観について前向きな視点もたらされた。そして、グループのみんなが力づけてくれたことで、俺は絶望的な状況に立ち向かうこともでき、2つの住居のうちで定住できそうな住まいを選ぶこともできた。NAのグループがどれもみな、こんなふうにかくまってくれて度量が大きいわけではないだろうが、俺が転がり込んだのはそういうグループだった。

もうひとつは、毎晩眠りにつく前に棚卸をすることを再び日課にするようになったこと。すると、毎日しっかり生きて日々の成長を重ねることによっていちばん大事なことが、いくつかわかった。それを自分がどのように行っているか、毎晩評価している。たとえば、決まった時間に床についているかにはじまって、ゲームをやったりテレビを観たりして時間を無駄にしているか、ホームの仲間に電話したか、翌日に着る物を整えておいたか、仕事で目標にしていることを達成できているか、といった具合にチェックする。

こうして日々つまづいてはいろんなことに気づきながら、ホームの仲間たちの愛情に支えられ、俺は変わっていく。心が安らいでいくとともに、「現実」も生きやすくなる。

今年、自分の記念日を楽しみにしている。記念日は、楽しみ、祝い、その日を迎えられることに感謝するためにあるのだから。

アル・H (アメリカ合衆国/ニュージャージー)



編集記：2017年NA Way マガジン1月号に掲載されたアルの物語は、www.na.org のバックナンバーを開くか、[ここ](#)をクリックしてダウンロード版を開けばお読みいただけます。

ベーシック・キャプション・コンテスト

ここに、みなさんがNAWayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。左にあるコミック（漫画）のキャプション（短い説明文）を書いて送っていただくだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれませんが）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前が載るというのも、なかなかいいものでしょう。

申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は naway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。



撮影者：ダイナ・T
(アメリカ合衆国/カリフォルニア)

手話通訳の表記に関するお詫びと訂正

NA Wayマガジン2017年1月号では、コンベンションをはじめとするNAのさまざまなイベントによる手話通訳の記録の提供を呼びかけました。その際に、アメリカ・サイン・ランゲージ[アメリカ式の手話言語]で「N」と「A」をあらわす手話の写真を掲載したのですが、申し訳ないことに、手話にあてた文字が誤っていました。これについては、英語版が印刷されたあとで誤りに気づいたため、紙版の方は訂正ができませんでしたが、インターネット版の方は英語版と8言語による翻訳版の全部に訂正をおこないました。謹んでお詫びいたします。

手話通訳

みなさんのNAでは、コンベンションやイベントによるスピーカーのわかちあいに手話通訳を提供していますか。その際には、手話通訳の様子を録画しているでしょうか。そうであれば、聴覚障害によって耳が聞こえないNAメンバーたちにもっと手を差し伸べるために、ご協力をお願いします。手話通訳の様子を録画したビデオがあれば助かるというNAは少なくありません。ですから、na.org/localresources によって利用してもらいましょう。このWebページには、世界中のNAから提供されたサービスの資料と道具が掲載されており、どれも自由にダウンロードして、各地のNAにあったやり方で利用できるようになっていました。みなさんがNAスピーカーのわかちあいを手話通訳した映像を持っているか、あるいは、そのような映像資料を探しているのであれば、fsmail@na.org までご連絡ください。





わかちあい 回復の道で歳を重ねる

わたしは花束を抱えて、彼女の家の玄関先に立っていた。出てきてはくれないとわかっていただけ、最後にもう一度だけドアを叩いた。花束は、玄関のドアに立てかけた。こうしておけば、手に取ってもらえなくても、家の中に倒れるから植え込みに落ちないですむだろう。持参したカードは折りたたんで、バラの花束の奥に差し込んだ。カードには、わたしが命をつないでうまく生きられるようになるために、彼女がこれまでしてくれたことに対する感謝の気持ちを記してあった。ひとつひとつ2人で一緒にステップに取り組んだこと。わたしが心を閉ざすと、何度でも車で駆けつけてくれたこと。休日には何度となく一緒に過ごしたこと。財政が困窮したときにはお互いに支えあったこと。18年という年月が、過去のものになってしまった。ドアをノックしても、電話をしても、車にメモを貼り付けても、彼女はもう応えてくれなかった…… わたしはストーカーになったような気がしてきた。そこで、自分よりクリーンタイムが長い女性に電話をすると、「望まれていないのに、ひとの人生に無理やり存在しようとする」のはやめたほうがいいと言われた。こうして新たな相談相手となってくれた女性に、スポンサーをお願いした。わたしは裏切り者になったような気がしたけど、聞いてはもらえない留守番電話にせせと柵卸を吹き込むなんてことは、もうやっつけられなかった。

かつてのスポンサーをいつものミーティングでみかけなくなったのには、わけがあった。「回復の道で病気になる」というミーティングにしか出ていなかったのだ。そこで、わたしもそのようなミーティングに一度出てみたのだけど、それだけでも事情通になった気でいた。こんなところに集まっているのは治療薬に頼る連中ばかりだと、さもわけ知り顔で決めつけた。それにしても、かつてのスポンサーは「なにがあろうと、なにも口にしない」と考える一派だったのには、以前、わたしが喘息の吸入機を使用したときに、なんで使用する前に言わないのかとたしなめた人がこのありさまとは、まさかの展開だった。

そして時が流れ、そんなことも吹っ切れた。わたしには、せせとミーティングに通い、サービスにも積極的に関わって、ステップワークにも熱心なスポンサーができたからだ。それでも2～3年ごとに、かつてのスポンサーが毎月のパースデーミーティングでメダリオンを手にするのを目にしていた。深刻な衰えのさなかにある姿が痛々しかった。背中を丸めて、誇らしげに頭を前に突き出しながら歩んでいき、もたもたと壇上にあがって自分のクリーンタイムを告げる。すると、部屋にいる人たちが立ち上がりて床を踏み鳴らしながら口笛を吹く。そのなかを、ゆっくりと自分の席に戻っていくのだった。まさに、肉体の苦痛と不屈の精神を絵に描いたようなものだった。どうみても勝ち目などないのに、それでもなんとか、クリーンで生き抜いているじゃないか。そんな姿を見せつけられて、「回復の道で病気になる」というミーティングをどうこう言うのは、もうやめにした。

あれから10年。わたしはそれだけ年をとり、今では手足を動かすといった簡単なことも苦しくなっている。慢性的な症状をいくつも抱えているからだけど、まあ、そんな話をしてはじまらないから、わたしと同じ状態で苦しみに耐えられなくなった人が2人、安楽死を施すことで有名になった医師の世話になったと言いつつどめておく。だからといってわたしは「ひとりぼっち」ではない。NAのオールドタイマーの多くが、回復の道

で老いていきながら解決のつかない痛みと暮らしている。

こうなったら、何が適切なのか。それについてはいろんな考え方があろう。それが「何があろうと、何も口にしない」という仲間もいれば、医師の意見に従うという仲間もいるし、「医療マリファナ」の煙や蒸気を吸っている仲間もある。わたしが今やっている方法や、これまでにやってみた方法をいくつか紹介しよう。まずは、NAの文献と、サービスと、柵卸。そして、イブプロフェン（非ステロイド系の解熱/鎮痛/抗炎症薬）、温冷パック、鍼、マッサージ、車椅子（1年間利用）、神経ブロック注射とステロイド注射。そして、繊維筋痛の投薬治療。そして催眠術、心を集中する訓練、経皮的末梢神経電気刺激法のさまざまな装置、カイロプラクティック。そして東洋医学、お茶とサプリメント、理学療法、水療法、スポーツクラブ、サイクリングマシン、仰向けに寝た姿勢で乗る自転車、ペダルを踏むと足が楕円形を描く運動器具、ヨガ。そして足にギブスをはめること、2回にわたる股関節の手術（手術中と術後に短期間の投薬）、毎日のストレッチ、電動車椅子。そして祈ること、黙想、書くこと、泣きわめくこと、文句をいうこと、這いつくばって懇願すること。そして仲間と一緒に活動すること、アート作品を作ること、アニマルセラピー、抗炎症効果のある食事、少しでもゆっくり休むこと、少しでも多くのミーティングに出ること。そして膝、くるぶし、背中などを固定する器具。松葉杖。あとはステッキ。レーザー・スクーター。ゴルフ・カート。まだまだ、あるだろう。

要するに、わたしは救済を求めて過酷な日々を送っているのだ。たしかに、正気の沙汰ではない。でも、それがわたしの人生だもの。できるかぎり苦痛を和らげれば、アディクションによって恐ろしい目に遭わずにすむだろうと思える。そうしてわたしは、だれのものでもない、わたしの道を生きるだけ。だからといって、わたしは自分のことを正当化するわけではない。ひとにはその人なりの道があるのだから、わたしもわが道を行くしかないのだ。

かつて、ナルコティクス アノニマスのクリーンタイムなどあってないようなものでメンバーは若者ばかりだと言われたものだし、そう考えても差し支えないとされていた。これは、すでにまったくの誤りになっている。私たちは胸を張って、そう言い切れる。NA



には今や、20年以上のクリーンタイムがあるメンバーが数えきれないほどいるのだ。30年を超えるメンバーも少なくないし、40年を超えるメンバーだったかなりの数になる。そして、NAで回復の道を歩む高齢者の数はピークを迎えつつある。となれば当然、そこには痛みが伴う。何かと、苦しい思いをするわけだ。

わたしたちは（自分で運転するか、だれかの車に乗せてもらうかして）ミーティングに出席しても、話すように求められないかぎり、40年間毎日のように耳にしてきた話をただ聞きいているだけなので、目を開けているのに苦勞することもある。それでも席に居座っていられること、それこそが老人にはなよりの余得なのだ。メンバーたちは、わたしたちがすべての答えを持っていて、腰が低くて賢く、周囲のバカ騒ぎに目くじらを立てたりしないし、つねに仏のような穏やかさで対処してくれるだろうと思っている。仮に、わたしたちが偏屈な気むずかし屋であるとしても、その姿によって、あとからつながったメンバーたちは長くクリーンタイムを重ねたときに、きっとわたしたちよりもっとましな生き方ができるようになる。そうであってもおかしくはない。いや、きっとそうなるだろう。

カリン・B
(アメリカ合衆国／カリフォルニア)

スポンサーシップ

僕は、ステップミーティングに出席するようになったばかりのときに「スポンサーをもって、ステップに取り組む」という話を聞いた。なんのこともやら、僕にはわからなかった。ある晩、ミーティングが終わってポケットと立っていると、一人の男性がやってきて「スポンサーはいるのかい？」とたずねた。いましてと答えると、その人が名乗りを上げてくれた。だけど、スポンサーシップによってどういうことになるのかも、僕の人生でスポンサーがどういう役割を果たすことになるのかも、僕にはわかっていなかった。でも、当時の僕は人づきあいのなかで浮いていることが多く、周囲に溶け込みたいと思っていたこともあって、その申し出を受け入れた。

といっても、かなりの期間、その人は名ばかりのスポンサーにとどまっていた。僕がスポンサーシップの意味を理解していなかったからだ。それが、NAの女性と交際するようになってようやくわかった。関係がうまくいかなかったとき、相手が僕のことをミーティングで「ほろくそ」に言ったのだ。そうしないと、僕のことや僕との別れによるいろんな感情におさまりがつかなかったのだろうけど、僕はみんなの前でモテル女性との破局に直面し、つらく、気まずい思いをしてい



た。それで、スポンサーにしょっちゅう電話するようになった。傷つき、腹をたて、恨みでいっぱいなのは、NAの文献を読むようになり、ミーティングの回数も増やしていった。12のステップによって回復することに本気で取り組むことにしたので、NAから去るうなんて思わなかった。スポンサーシップではステップ5まで取り組んだのだけど、その時点で、スポンサーはある女性との関係が復活し、結婚して遠くに引っ越してしまった。

そして2番手に、今のスポンサーが登場する。そのときまでにはNAのステップワークの重要性がわかっていて、自分がそれまでに取り掛かっていたことを完了したいとも思っていた。しかし、ステップに取り組むのをやめちゃうのはもったいないと思ったのは、高尚なことをしている気になっていたからだ。クリーンでハイになった僕は、ミーティングに行っても自分とステップをやっていない仲間とを比べるようになった。そんな程度の低いことで張り合うのが、病みつきになっていった。そして、ミーティングで観察を重ねてから、新しいスポンサーを選んだ。そのときにはわかっていて選んだわけじゃないのだが、この人は僕の理想になる多くの資質を備えていたのだ。この人には怒りや、敵意や、権威主義的なところがないように思えた。物静かでゆったりとかまえているようだった。そこに、僕は惹かれた。怒りや敵意や権威をちらつかせる人となると、安心できなかったからだ。

不安やとまどいを感じたときに人ではなく薬物に頼ろうとするのは、アディクトならみな同じだが、僕はそこから回復しつつある。そして、並はずれた羞恥心によって親密さを恐れることから、僕は回復しつつある。僕は、困ったことになるのは女性のせいだと考えてばかりいて、自分のなかで折り合いがつかないことがあると女性を非難した。回復が進むにつれて自分の問題が浮き彫りになり、手本となる男性像に問題があることがわかった。男らしさや大人の男について、男性や社会から受け取った情報に誤りがあったことを認めるようになった。スポンサーとのかかわりによって、日々生じてくる感情を探るだけでなく、その感情を自分できちんと引き受けることで、薬

物を使わないでも満足を感じるようになるようになった。

なにせよ、僕より先に回復の道に踏み出したアディクトたちによって、トラウマから回復する効果的な方法があるとわかったのだ。僕はいつも、対人関係で傷ついていた。けれども先人たちは、回復の道を歩むアディクトが傷を癒すためには、まさに自分を傷つけることがある「対人関係」に頼る必要があることを理解した。そうして試行錯誤を繰り返し、創意工夫をすることで、スポンサーシップというものを生み出したのだ。

回復の道を歩みながら12のステップに取り組むことによって、僕とスポンサーとの関係は深まった。スポンサーと協力しあって感情を探っていくことで、対人関係がことごとく改善されていった。NAの文献からわかるとおり、「… NAのプログラムは単独で取り組むものではない」（『スポンサーシップ』、「序文」）のだから、僕らは独りでは癒されない。僕はスポンサーシップによって、正直さ、広い心、勇気、やる気を実践し、傷つくことを恐れないようになった。自分やほかの人を信じることを教わったのだ。

男たちが見栄を張りあうのをやめて仮面をとり、それぞれの感情をわかちあうと、親密さが増していく。多くの男性がこのような機会をつかめないまま自分の感情をもてあまし、それを女性になんとかしてもらおうとする。そうして女性にあまりにも多くの重荷を背負わせることになるのだ。男同士で親密な絆をもたず、女性に心理的な負担を負わせ過ぎれば、うまくいくわけがない。

先週のことだ。僕はベンチに座って、自分のスポンサーと話をしていたら、遠くの方にスポンサーが自分の車まで歩いていくのが見えた。スポンサーと共に歩いて、もうどれくらい経つだろう。自分のことについて、どれほど多くを学んだことか。このスポンサーシップのおかげで、どれほど自分の心が広がったか。そんなことに思いをはせるうちに胸が熱くなった。自分の対人関係についてぶつぶつ言う人がいても、僕は黙っている。ほかの人たちが不幸を嘆いていても、言わせておく。だれかが寂しいと不満をたれていても、僕は発言を控える。今の僕は、

そういうことで悩まない。スポンサーシップによって、どんな人との関係でもお互いに納得がいくように改善できるようなったからだ。スポンサーが僕の回復に果たす役割を考えるうちに、いろんな思いがこみあげてきた。スポンサーが歩き去るのを見ていたら、胸がいっぱい涙がこぼれそうだった。ひとりのアディクトがもうひとりのアディクトの手助けをすることの治療的な価値を、僕は信じている。

ジェラルド・C
(アメリカ合衆国/カリフォルニア)

51年を過ぎてなお旅にある

2、3日前になります、ノーザンカリフォルニア(北カリフォルニア)のNAでは、51年のクリーンタイムを祝う仲間がケーキに立てられたキャンドルの火を吹き消しました。この仲間が回復の道に歩みだしてから44年後に、私はイランのNAにつながったのです。私は、イランからこの仲間電話をして、その人生とNAという仲間の集まりについていくつか質問をしました。そのやりとりを、ここにご紹介します。

Q [質問] : 51年もの間、どうやってクリーンにとどまったのですか。

A [答え] : 教えに従って、耳を傾けることによってだな……自分が話したいときには、むしろ耳を傾けて注意を払ってね。それと、いろんな意味で、一歩ずつ歩んでいくってことだ。それは自分の足で踏み出す一歩であり、ステップと伝統による一歩でもある。おれは、すごくいいスポンサーをもったので大いに助かったよ。すごく頼りになったんだ。提案なんかする人じゃなかったけど、おれがすべきことはきっちり教えてくれた。そして、スポンサーシップによってメンバーの手助けをしたりとか、NAのためにエリアやリージョンでいろんな活動をしたりとか、いろんなサービスにかかわったことがとても役立った。ほかに道がないのだから、おれはとどまった。クリーンにとどまる以外には、刑務所、施設、死へと続く道しかない。だから、かつては恐怖心によってクリーンにとどまろうとした。今は、クリーンで生きることが喜びとなり、そういう人生を愛しているから、クリーンにとどまっているというわけだ。(おれは口が重いから、聞き出す方も大変だな、ハハハ)

Q : 今も、スポンサーがいますか。

A : スポンサーがひとりと、「スポンサーのサブ」が何人かいる。そして、これまでおれがスポンサーをしてきた連中もみんな、力になってくれてる。スポンサーたちが助けを求め

て電話をしてくれば、それによって逆におれの方も助けられているんだ。これまでおれのスポンサーになってもらったのはひとりやふたりじゃない。だれだって歳にはかなわないし、次々とこの世を去っていくからだ。

Q : スポンサーは、自分よりクリーンタイムが長くなくてはいけないと思いませんか。

A : 今のスポンサーは、おれよりクリーンタイムが短いけど、すごくいいスポンサーだよ。自分よりクリーンタイムが長くなければならぬとしたら、えらく苦勞しただろうな。そんなメンバーなんて、2人もいればいい方だし、おれの住んでいるところにはいやしない。だから、おれはこれまで自分よりクリーンタイムの短いスポンサーを2人もつことになった。年数を重ねることなんて、それだけの時間は何をするかってことにくらべたら、それほど重要じゃないだろう。スポンサーといっても、十人十色さ。今のスポンサーは、おれのクリーンタイムにはちっとも恐れ入っちゃいないよ。でも、すごく正直に話してくれるし、的を射たことを言ってくれるから、本当にありがたい。こんなことを言ったら嫌がられるんじゃないかと恐れている人もいるし、おれだって何を言われてもハイハイと聞けるわけじゃない。だが、自分のためになることってというのは、言われてうれしくないことだと相場が決まっているし、それでも自分が助けを求めるなら、与えられる指針に従わなければいけないだろう。

Q : 導きを求める「願望」については、どう考えますか。

A : 願望についてなら、一日中でも話せるよ。NAの『伝統3』では、以前は「クリーンにとどまりたいという心からの願望」とうたっていたが、後になって「心からの」という文句を外した。そんなことはだれも判断できないからだ。それで、クリーンにとどまりたいという願望となっている。願望がなければ、希望も持てやしないだろう。最初は小さな火がちらつくぐらいだが、とどまってその火を大きくしていけば、やがて燃え上がる炎になるだろう。伝統3ってのは、よくできているよ。

Q : 今も、変わろうとする気持ちがありますか。

A : いい質問だな。おれはなかなかその気にならない(行動を起こすまでちょっと時間がかかる)んだ。でも、そうやってのらりくらりしていると、苦しくてたまらなくなる。おれは意識しないと正しいことができないから、いつまでたっても間違っばかりいるんだ。

Q : 51年経っても？

A : そうだよ、ハハ。いまだに、つい、よけいなことを言っちゃうんだ。そういう自分の軽率さのせいで、すぐに埋め合わせをしなければならなくなる。腰を据えて自分はどうすべきかと考えればいいだけなんだけど。なにはともあれ、おれはステップワークをやった現在の残骸を取り除くことにつとめている。NAにつながるまでの出来事はあらかじめ償ってきたが、クリーンになってからの出来事のなかにはきちんとしなければならぬことがいくつかあるんだ。

Q : 何歳でクリーンになったのですか。

A : 最初は24歳のときだったが、その時にはどうということもなかった。何人か、気の合う仲間もできたけど、おれはその気になれなかった。クリーンになる覚悟ができてなかったんだ。2ヶ月かそこら、うちよるしただけだった。それから、いろんなトラブルに陥って、27歳のときにNAに舞い戻ったというわけだ。

Q : では、78歳になられるんですか。それにしても、声がお若いですね。

A : 成長してないからだろうな。ハハ。しかも、おれは若い連中とつきあっていることで頑張っている。それに、毎日体を動かしているから体調もすこぶるいい。それと、遺伝子が優秀なんだらう。

Q : ジミー・Kに会いましたか？

A : ジミーみたいにエネルギッシュなやつは、知らないよ。このNAという集まりを愛していたから、NAが崩壊しかけたために多くの困難を経験したんだ。しかし、ジミーは素晴らしい提案をいくつも持っていた。NAが「AA(アルコホーリクスアノニマス)の伝統を採用する前」であっても、伝統についてはうさ型だった。だから、ほかの仲間たちが伝統を守ろうとしなくても、ジミーは伝統に忠実であろうとした。ジミーはいったんNAを離れたんだ。それはほんのいつかだったが、事態は悪くなる一方だったので、後になって何人かの仲間たちと一緒に戻ってきたってわけだ。

おれが初めてNAにつながったころは、ロサンゼルス界隈で5つぐらいのミーティングが開かれていたが、メンバーの数は20人~30人でしかなかった。1996年に舞い戻ってきたときには、メンバー数は50人ぐらいになっていたんじゃないかな。初めて出入りしたところに「気のあった仲間たちは」、サンフランシスコ・ベイエリア(湾岸地帯)のノーザン・カリフォルニアに移ってしまっていた。クリーンになって1年半して、おれは足を骨折した。医者に行くわけにはい

かななかったんで、トレーラーを手に入れてベイエリアまで移って来た。それ以来、ずっとこっちにいる。一時期サクラメントに移ってから、しばらくの間アラスカまで仕事に通っていたが、ほとんどはソノマ郡[カリフォルニア州西部]で暮らした。こっちに来た当初は、このあたりにNAミーティングが一つもなかったから、もっぱらAAのミーティングに出ていた。だが、AAにもピルとかアルコール以外の問題を抱えている連中がいたので、NAのミーティングを始めてみないかということになった。それが成長したもんだ。今では、30年や40年もクリンタイムを重ねるメンバーがたくさんいる大きなNAになっている。



回から6回のミーティングに出ていました。そして、フルタイムで働き、子どもたちも幼かったころには、2回か3回のミーティングがふつうになっていました。それでも、人生にどのような移り変わりがあるとうとミーティングにはきちんと出るということに、変わりはありませんでした。つまり、わたしの居場所はNAのミーティングときまっていたのです。そうということが、わたしには効果があったのです。

こうしてミーティングに通っていると、これまでに何度となくリラプスの話を耳にすることになりました。わたしは仲間の経験や過ちから学びたいので、注意深く耳を傾けています。話の内容は人によって大きく異なりますが、長年にわたって耳にするうちに気づいたことがあります。それは、処方薬にからむリラプスが増えているということです。これは、わたしにとって人ごとではなくなりつつあります。いくら自分ではしっかり回復しているつもりでも、歳をとるにつれてあちこちに痛みを覚えて病気がちになっているからです。わたし（たち）は治療薬を処方されたら、回復しているからと油断してはなりません。念のため、次のようないくつかの質問を自分（たち）に問いかけてみればいいのです。

わたしは、指示された通りに服用しているか。次回の服用が待ちどおしいか。処方された薬は、売り物になるか。交換したり、売ったり、あるいは貸し借りなどを行っているか。治療薬を服用していることを人に話すのは、相手がスポンサーであっても、バツが悪くて気が進まないだろうか。処方された薬が残りに少なくなってきたら、補充しないと不安でしょくないか。処方された薬のことばかり考えて、肝心なことに気が回らず、大事なことがおろそかになっていないだろうか。このような状況について、回復の道を歩む仲間たちからどんなことを聞いたり学んだりしてきたか。自分には心を開いているか。自分とハイヤーパワーとのつながりは、どんな状態になっているか。

処方薬の服用を必要とすることは、是非を議論するまでもありません。ナルコティクス アノニマスでは、ナルコティクス（麻薬性の物質）が問題とされるのです。わたしたちの経験と力と希望が、ほかのアディクトの助けになるかもしれないのだから、それをわかちあうのはわたしたちの特権であり、また責任でもあるのです。ここであげた質問は、わたしには役立つので、みなさんにも役立つことを願っています。

役に立てることに心からの感謝を込めて
ダイアナ・J
(アメリカ合衆国ノースカリフォルニア)

スポンサーがリラプスしたら

あたしはクリンになって6ヶ月のときに、四人目のスポンサーを見つけた。出会ったとき、その人はまさに、あたしのほしいものを持っていた。それは、NAで長生きしてるってこと。あたしはそういう人を見つけようと必死だった。あたしの家から20マイル以内には、ナルコティクス アノニマスのミーティングがひとつしかないんだけど、教会の地下室で開かれていたそのミーティングで、その人は6年のメダリオンを受け取っていた。6年のクリンタイムなんて、あたしには永遠のように思えたわ。だから、そんなに長く回復の道を歩んでいるんだとしたら、この女性こそ、あたしが自分の理解している神に出会わせてくださいと祈っていた相手にちがいがなかった。

絶望から生まれた贈り物は、回復に踏み出したばかりのあたしには強い味方だった。スポンサーの提案に従うことは、あたしには生死にかかわる問題だった。リラプスして挫折感を味わうのがこわかった。その恐れに突き動かされ、あたしはクリンにとどまるためならなんでもする気だった。スポンサーが回復の土台を築く足場になってくれたので、一日一日と、狂気のどん底から這いあがっていくことができた。ステップと伝統によって導いてもらいながら、スポンサーの励ましと、忍耐と、愛と、友情にすぎた。そして、あたしがステップ5をわかちあったときには、スポンサーは10時間もの間ずっと耳を傾けてくれた。2014年9月30日は、忘れられない日となった。あたしは、スポンサーの導きと提案を信頼していた。回復の道に踏み出してから4年の間に、あたしが経験したスピリチュアルな目覚めと成長はすばらしいものだった。自分には生涯にわたるスポンサーがいるし、これで長生きは確定したと、あたしは確信した。

そして、6ヶ月ほど前のことだった。スポンサーは10年のクリンタイムを祝った直後に、こんなことを打ち明けた。慢性的な健康問題（不安やうつを伴うおなじみの問題）が重くのしかかって押しつぶされそうになり、使うという考えと格闘しながら、自分のスポンサーに電話をしたというのだった。スポンサーがNAの教えに従っていることがわかって、あたしはうれしかった。それによって、スポンサーがみずからの回復のために正しいことをしているという信頼感がもてた。だけど、それから1週間後に、スポンサーがまた電話をしてきて、大事な話があると言った。そして涙ながらに説明するのを、あたしは信じられない気持ちで聞いていた…。

グウェン

Q: 僕らは、アメリカのみなさんには本当に頭があがりません。僕らのいるイランリージョンでは、現在、50万人のアディクトが回復の道を歩んでいるんですよ。遠隔地でさえ、多くのミーティングが定期的に開かれています。ここで、イランのメンバーたちに、何かメッセージをいただけますか。

A: 今やっていることを、とにかくやり続けることだ。それは、すごいことなんだからな。おれも、先につながった仲間たちには頭があがらないよ。そして、イランで最初のミーティングを開こうと行動を起こした仲間たちには、頭がさがる。その連中は、NAがみるみる大きくなっていった様子に、最高の気分を味わっているに違いない。この手の話を聞くと、希望がわいてくる。自分が経験してもおかしくないって気がしてくるんだ。それだけの価値があるってことだよ。イランの仲間達がやっていることは、すばらしいの一言につきる。どうか、そのまま続けていってくれ。

アーラシュ・S
(イラン/カラジ)

痛みの処方薬

わたしは1984年にテキサス州のヒューストンでクリンになり、それ以来ずっとクリンで生きてきました。年月を重ねるなかで終うまくやってきた数少ないことの一つが、ミーティングに出席することです。ミーティングには「きちんと」出たほうがいいと、NAの文献に書かれていますからね。ただ、わたしの場合、きちんとするにも年月を経るなかで少し違いがみられました。クリンになって最初の2、3年は、きまって週に5



グループ紹介

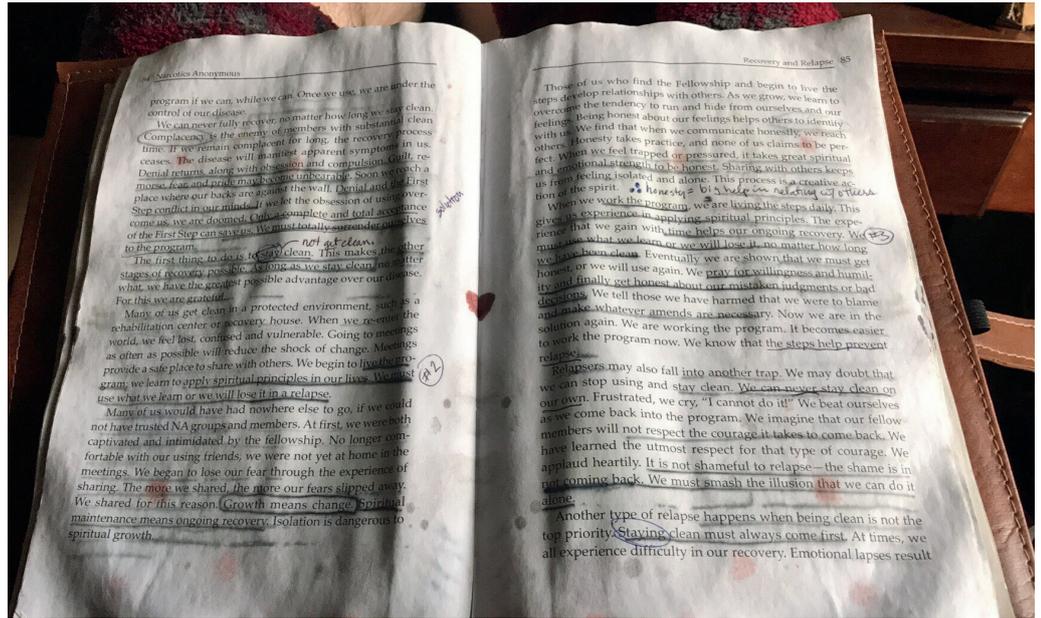
NAWayでは、世界中のNAからミーティング会場やイベントの写真が送られてくるのをお待ちしております。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真をご遠慮ください。なお、写真には、グループやイベントの名称、所在地および国名はもちろん、グループやイベントが誕生してどのくらい経つのか、ミーティングの形式やイベントで大事にしている習慣、ユニークな点など、グループやイベントの紹介文を添えていただくようお願いします。宛先は、naway@na.org となっています。

こんなことがあるなんて！

これは、『ベーシックテキスト』第6版の写真です。雨のなか
に放置したらぐしゃぐしゃになってしまったので、そのありさまを見てもらおうと、写メールにして
スポンサーに送りました。ぼくは
適当なページを開いて写真に撮った
のですが、送信してから、真ん
中の綴じのところに赤いシミがある
ことに気づきました。こんなこと
が「ある」なんて！ この『ベー
シックテキスト』は家宝にして、
大事にしなくちゃ！

ブレット・L

(アメリカ合衆国/イリノイ)



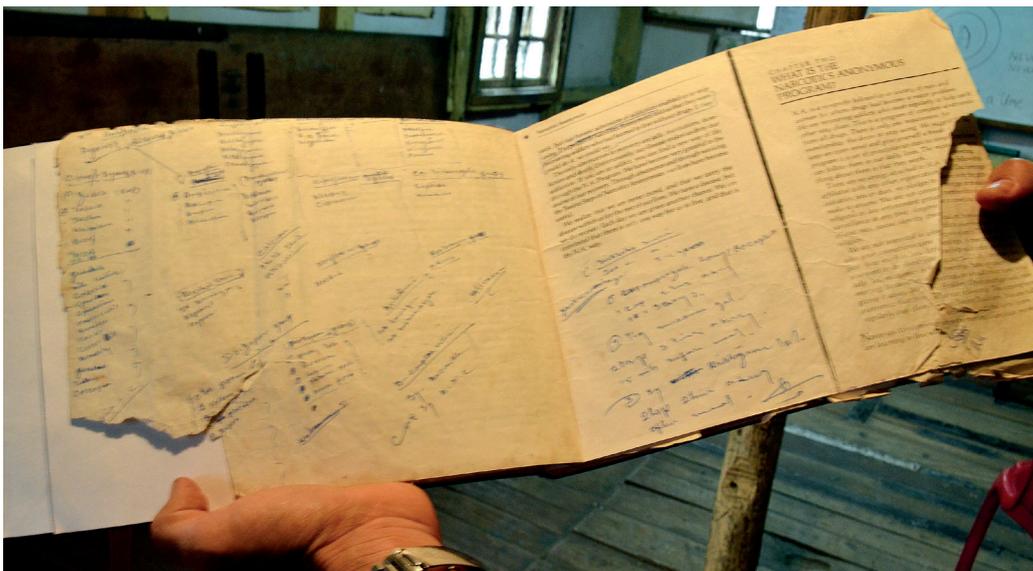
みんなの

『ベーシックテキスト』

写真にある『ベーシックテキスト』は、インド北東部の国境沿いにあるナガランド州の町、コヒマのリハビリセンターで回復の道を歩むアディクトたちによってすっかり使い古されていました。ページの余白には、これを読んだアディクトたちのメモで埋め尽くされています。角の破れからも、大勢の手でページがめくられたことがわかります。このリハビリセンターは、NAのミーティング会場にもなっているんですよ。

アノニマス

(アメリカ合衆国/カリフォルニア)





中東で歴史をつくる

「第5回NAWS中東ワークショップ（ME5）」は、中東各地のNAによるサービス活動を支援するべく、NAWSが継続して取り組んでいるフェローシップディベロップメントの一環として予定されていた。NAWSは、中東各地のNAの間でコミュニケーションや共同作業が円滑になるように手助けをしているのだ。そして今回の遠征では、[NAクウェート](#)に直接対応して、回復の道を進もうと殺到している女性たちがNAの仲間入りができるようにすることも計画されていた。

今回にかぎったことではないが、NAWSの遠征チームはできるだけ多くのことに対応できるようにと、11月初旬の行程にいくつかの活動をつめこんだ。[アラブ首長国連邦](#)（UAE）滞在では、イベントがめじろ押しだった。アブダビで開催された「国際アディクション医療学会」の年次総会への参加には、UAEや[エジプトのメンバーたち](#)の支援があった。地域社会と行政機関の代表者たちに対する説明会では、地元のPR[広報]委員会がまとめ役になってくれた。そのほかには、サービスにかかわるメンバー向けの2日間にわたる「中東ワークショップ」や、イランの奉仕を任されたしもべたちに対する1日のワークショップ、「アラビア語による文献翻訳委員会」の2日間にわたる会議などに出席した。そして、ドバイでいくつかのワークショップに出席したあと、私たちはクウェートに向かった。クウェート市では、2日間にわたってフェローシップディベロップメントのさまざまなワークショップを開催したが、これはクウェートの女性に対するFDに力を入れたものであった。

広報に関するイベント

ドバイで開催された半日がかりのPRイベントには、現地の治療の専門家をはじめ、矯正施設の幹部、教育省の幹部、地域開発局の職員数名のほか、関心のある一般市や、NAのメンバーたちが参加した。ここで特筆すべきは、刑務局の局長が参加者に向かって、自分はこのイベントによってNAに対する見方が変わったので、UAEの矯正施設でNAのミーティングが開かれることを望んでいると述べたことである。すると、だしぬけに会場からずっとNAメンバーの母親が立ち上がり、息子がNAで回復の道を進んでいることについて心

に響く話をしてくれた。その場にいた当局者たちは、アディクションと回復における家族の役割に気づいたのである。この母親を励まし、ドバイでナラノンを立ち上げるようにと支援を申し出た。それを目標に、この母親は今活動を続けている。

アラビア語による 文献翻訳委員会

アラビア語による文献翻訳委員会（ALTC）は、文献翻訳委員会としては特殊である。NAWSのワークグループの一つなのだ。サウジアラビア、クウェート、エジプト、バーレーンのメンバーたちによって構成されていたが、最近になってカタールとアラブ首長国連邦のメンバーたちも加わった。現在、ワールドサービスオフィスではアラビア語版『なぜどのように効果があるのか』の作業を終えようとしているが、ALTCの方もアラビア語版『今日だけ』の原稿を仕上げつつある。ALTCは、はやる気持ちでいることだろう。





フェロシップ ディベロップメント

NA World Services Middle East Workshop



第5回中東ワークショップ

2017年11月3日（金）に開会した「中東ワークショップ」は、2005年の第1回以来、中東におけるNAの発展の歴史に焦点を合わせて開催されるワークショップである。メンバーたちはそれぞれのNAについて、成長と発展に関する情報を提供した。複数の言語を話す数百人の情熱的なNAメンバーたちの参加で、プレゼンテーションおよびディスカッションの資料はアラビア語、英語、ペルシャ語の3言語で用意した。これはちょっとした挑戦だったが、メンバーたちは集中してうまく対応してくれた。

当日の参加者は、バーレーンからの6人をはじめとして、クウェートから15人、サウジアラビアから20人、オマーンから8人、イランから125人、アラブ首長国連邦から20人、エジプトから7人。そのほかにも、誕生したばかりのスーダンのNAからは2人が参加した。アフガニスタンのメンバーたちも参加しようとしたのだが、ビザを取得することができなかった。みんな屈託がなく、感謝の気持ちをもち、和気あいあいとしていた。そのような場であったから、アラビア語圏のNAが共同で取り組む道を探ったのだ。こうして協力の姿勢を示すことは歴史的なものであり、参加した各地のNAを代表する10人も前に進んでいく力になろうという気にさせられた。これ以来、5カ国の11人のメンバーたちがインターネットによる会議を2回開いている。その熱意と、サービスへの意気込みと、心の交わりに、私たちは感謝している。異なる文化や集団にはいくつもの壁が立ちあがるものだが、NAはひとつにまとまって苦しんでいるアディクトに手を差し伸べるためにそうした壁を超越することができるのだから、実に驚くべきことだ。

また、今回のワークショップにはうれしい特別参加があった。クウェートからやってきたNAメンバー2名とカウンセラー1名には、クウェートの女性10名が同行していたのだ。この女性たちはいくつかのワークショップに参加して、「女性席」から活発に意見を提供してくれた。私たちは、そのうちの何人かとクウェートに関するワークショップで顔を合わせ、知り合いになった。そして、私たちがひと晩の女性ミーティングを設けたところ、クウェートの女性たちは全員出席し、心にしみるわかちあいが行われた。クウェートの女性たちが心を悩ませることの多くは、世界中で回復の道を歩む女性たちの悩みと変わりはないのだ。

中東では、女性たちがミーティングに通うのもサービスにかかわるのも、なかなか思うようにならないことであるのは明らかだった。このワークショップへの出席は、サービスの役割であったため、資金提供を受けて出席した女性は1人もいなかった。ということは、エリアやリージョンでサービスの役割

についている女性は1人もいないことになる。それでも、クウェート、イラン、バーレーン、アラブ首長国連邦からは何人かの女性たちが自費で参加していたが、昨年私たちがオマーンで出会った回復の道を歩む六人の女性たちは、今回は1人も参加していなかった。

土曜に開かれた3つのワークショップでは広報活動を取り上げた。そのなかで、「ナルコティクス アノニマス・ミドルイースト・コンベンション (NAMEC [NA中東コンベンション]) の未来」と「中東での共同作業」というNAWS、エジプト、イランによる活動と取り組みが紹介された。それに続いて、エジプト、アラブ首長国連邦、イランから、それぞれの地域に関する最新の報告があった。イランの広報に関する統計結果の報告は、驚異的なものだった。250を超える広報委員会が活発に活動しており、どれもよくまとまって集中的に取り組むことでさまざまな成果を挙げているというのだ。たとえば、イラン国内の刑務所でNAの存在を知らないところはないというくらいにまでなっている。また、イランのH&Iは213の刑務所で1,402のパネルミーティングを開き、4,000人の奉仕を任せられたしもべたちがNAのメッセージを運んでいるほか、治療施設でのパネルミーティングの数についても同じような統計結果が報告された。

「NA中東コンベンション (NAMEC) の未来」と「中東における共同作業」は、2つの議題について話し合うことから始めた。まず、中東各地のNAがこのままNAMECにかかわっていくとどうするか。そして、中東各地のNAによるこれまでとは別の種類の共同作業を検討することである。そもそもこのコンベンションは、先の中東ワークショップから時間をおかずに開催することになった。というのも、このような話し合いのために中東各地のNAが寄り集まる場がないからだ。現在の世界情勢では、中東各地のNAがそろって参加する場を確保することが最大の課題となってきた。今回のワークショップは、これまで最も開催費用がかさむもののひとつになったが、メンバーとサービス委員会の交流をはかるうえで非常に得るところが大きかったのである。アラビア語圏のNAでは、このままNAMECに関わっていくことで合意をみた。イランのNAは、自分たちのリージョンで協議するために保留とした。だが、その日の午後には、イランリージョンの議長がこの集会の場で、NAのメッセージと心はあらゆる国境を超えていくものだとし、イランは中東各地のNAを支援することに本気で取り組むことにすると発言した。これによって会場は喝さいにつつまれた。



イランのサービスに関するワークショップ

日曜に開催された「イランのサービス ワークショップ」には、大勢の参加者が詰めかけた。イランの29のエリアから、それぞれのリージョナルコミティのメンバーが出席したほか、リージョンのサービス委員会で奉仕を任されたしもべたちも参加して、人数はおよそ120名にのぼった。「一体性」に関するセッションでは、参加者たちが「伝統1」とスピリチュアルな原理によって役立つとすることの重要性について議論を交わした。それから参加者たちは、イランリージョンの3つの重要課題を確認し、解決策に向けた取り組みを検討した。イランのNAでは、『各地域でのサービスの手引き』に基づいてサービスシステムを構築している。私たちは、イランにおけるNAの未曾有の成長を高く評価して、それがほかの国や地域のNAにとってどのように励みになっているかということ伝えた。

クウェート： 回復を求めている女性たち

私たちは続いてクウェートに向かい、2日間にわたって地元の女性向け治療施設と中間施設でワークショップを行った。今回のFDによる遠征は、過去2年間にNAでの回復を求める女性たちが殺到しているのを受けて、クウェートのエリアサービスコミティから特に要請があったものだ。クウェートで回復の道を歩んでいる女性の総数は、今のところ約58人である。大半はクウェートの女性だが、サウジアラビアとエジプトの女性もいる。女性向け治療センターのある地域内で2つ、そして地域外で1つ、女性ミーティングが開かれている。少数の女性が、男女混合のミーティングに参加することもたまにある。これまで男性限定としてきたNAの大半が、自分たちの方から適切な交

流をはかっていくことで女性を仲間入りさせる道を模索している。女性のスポンサーは1人か2人はいるが、経験の長い信頼される男性メンバーの1人がいつの間にか、クウェートの女性のスポンサーを一手に引き受けるようになっていた。

初日に開かれたワークショップには、約30名の女性が出席し、4時間の長丁場となった。みんな、よその地域のいろんな仲間たちによる回復の物語に触れることができないので、ぜひとも私たちの話を聞きたいと思っていたのだ。このため、私たちは自分の話を手短かにわかちあわせてもらった。また、私たちは情報の提供の際にQ&Aの時間も設けたところ、(ステップ4と5を中心にして) ステップに関することや、スポンサーシップ、サービスに伴う責任、自分と、ハイヤーパワーと、恋人との関係など、さまざまな質問があった。

翌日のワークショップには、地元のNA全体の50%を占める約130人のメンバーが出席し、そのなかには前日に続いて出席した女性も13人いた。ワークショップは前日と同じようなかたちで行なったが、質問の多くがアラビア語によって行われたため、通訳を介することで進行はゆっくりになった。それでも、スピリチュアルな原理、回復とリラプス、サービス、スポンサーシップなどをはじめ、多くのテーマを取り上げることができた。前日と同じく、多くの女性が出席して自分でメモを取っていた。両日とも、ワークショップの後には仲間たちとの夕食会が開かれ、そこに女性が何人か参加していたのは嬉しいことだった。その席では当然、さらに多くの経験がわかちあわれ、さまざまな質問に答えが示された。こうして私たちはクウェートを離れたが、その後も、経験豊かなメンバーによるワークショップが女性たちのために開かれたことや、次のASCミーティングには女性たちが出席することになっているという報告があった。

PRの取り組みと同じく、FDの影響を測定することは困難である。だからこそ、中東でのFDには引き続きしっかり取り組んで行く。今回の遠征では、中東各地のNAとNAWSとの間で、つながりやコミュニケーションや協力関係が深まった。それは、中東でナルコティクス アノニマスが成長しつつあることに計り知れないかたちで貢献しているのだ。

中東では、21,168のNAミーティングが開かれている
世界各地で毎週およそ67,000のミーティングが開かれている
2016年4月現在

中東のNAグループ



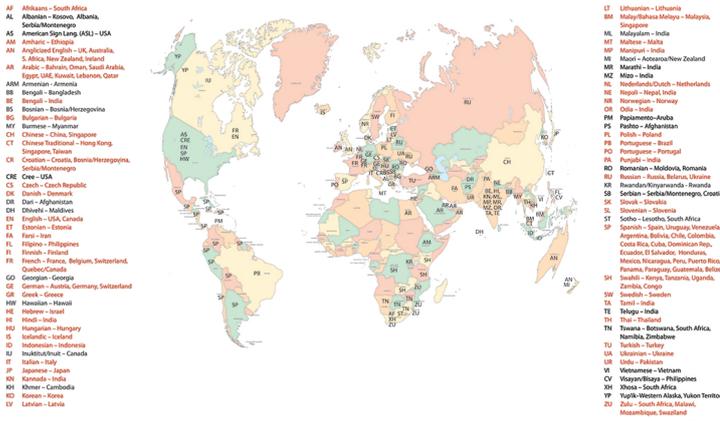
2005年現在 中東におけるNAの分布図。



中東のNAは、21,000を超えるミーティングが開かれるまでに成長した(2016年現在)。最近になってスーダンにNAが誕生したこともあり、この数はさらに増えるだろう。

NAで話されている82の言語

IP# 1は、赤字の53の言語によって翻訳出版されています。



スタッフに送ることができるのです。

LTCとワールドサービスとの間では、ことばの選択やその国のなじみのある自然な表現にする必要性をめぐってさまざまやりとりが交わされるでしょう。これは、両者が納得する翻訳が仕上がるまで続けられることになります。

これがすんだら、NAWSの翻訳スタッフ、プロの校正者、LTCによって、翻訳原稿が誤りのない状態になるまで見直しと、プロの校正と、修正および訂正を行います。この作業は、LTC、校正者、NAWSの翻訳スタッフの間をひとめぐりするものですが、構成と編集の役割を何度か交代して行うこともあるでしょう。つまり、みんなで足並みをそろえて取り組む「共同」作業なのです。こうすれば、LTC、校正者、NAWSの翻訳スタッフの3者が、それぞれの段階で同じページをチェックすることができるし、特定の言語や文化の問題を解決するために協力しあえるというわけです。そして、完成原稿ができたなら、ワールドサービス オフィスで割り付けをするという段取りになっています。割り付けとは、出版に向けて活字の大きさ、字配り、行数などの指定を行うことです。それがすんだら、割り付け原稿の校正が行なわれ、ここで最後の最後に修正や訂正がある場合にはLTCの意見を聞くことになります。その際には、翻訳についてはこれでもう大丈夫であるとゴーサインを出してもらうために、写真製版原稿（完全版下）が送られることもあります。

しかし、これほど入念な翻訳作業をもってしても、原文の意味することを正確にとらえるのはむずかしいことなのかもしれません。

私たちは1998年2月の初めに、特定の言い回しをその国の言語に訳すことのむずかしさをめぐって、イランの「ペルシャ語による文献翻訳委員会」とやりとりをしました。たとえば、「アディクトになったら、一生足を洗えない」という言い回しが、「家の戸口で眠ってしまったラクダは、二度と立ち上がることはない」と訳されていたのです。

そしてラトビアでは、この言い回しが最初に訳されたときは「酢漬けのピクルスは、生のキュウリには戻らない」となっていました。

また、ズルー語の翻訳が始まったころには「しかし、ある時点でくいとめることができるので、そうなれば、回復は可能になる」という文章が「しかし、進行を遅らせることができるので、回復は可能である」と訳されていました。

そこで評価の際には、その国の言語で訳されたものを、英語に訳し直してみるのも一つの手になります。韓国では、次のような例がありました。個人の物語にある一文が「ケバケバしい服は、整理ダンスの上に置いた」となっていたので、いったん「シャキッとするものを、整理ダンスの上に置いた」という英文に訳し直し、それから「薬物は、整理ダンスの上に置いた」と訂正されたのです。

機械翻訳

翻訳は、人間でなければできない創造的な作業です。コンピュータ自動翻訳など「機械」による翻訳は、気のおけない間柄で即座にやりとりするには手軽で使いやすいということもあるでしょうが、しかし、最高のテクノロジーであっても元の言語の心髄となる精神を正確にとらえることはできません。これでは、NA独自のことばやその国の文化や言語の影響を配慮することなど、とてもおぼつかないでしょう。

そして案の定、NAのメッセージが明確に反映されていない機械翻訳をちらほらと目にするようになってしまいました。たとえば、東アフリカ コンベンションで用意されたTシャツは、One Promise: Freedom from Active Addiction [ひとつの約束： アディクションから自由の身になる]というメッセージを伝えるものでした。これをスワヒリ語 (uhuru kutuoka uraibu kamili) から英語に翻訳する場合、ある機械翻訳では freedom of rituals in full deception [欺瞞に満ちた儀式からの解放]となり、また別の機械翻訳では freedom of to sneeze in full dungeon [地下牢に閉じ込められてくしゃみをする自由]となっていました。

これ以外にも、あるソーシャルメディアの投稿には「NA Service Structure [NAのサービス構造]」というタイトルの図解があり、タイトルのスワヒリ語訳は「mfumo wa huduma za NA」と正確な訳になっていました。それが、そのソーシャルメディアが提供する機械翻訳では Service of the service service [サービスをサービスすることによるサービス]となっていたのです。

誤訳にもたまにユーモアを感じさせるものがあったりしますが、機械翻訳によってNAプログラムというものが誤った印象を与えかねないとなると、そんな呑気なことは言っていられないし、むしろ不安になってきます。なかでも、NAが高い評価を確立しつつある地域では、機械翻訳に頼るのは危険なやり方になるのです。



自然災害の支援

世界各地で発生する自然災害などによって、NAが大きな被害をこうむることもあるでしょう。NAの文献やミーティングに必要なものが失われたり、使い物にならなくなったりしても、グループには買い換える資金がないかもしれません。もちろん、災害時には、ほかにもまず解決しなければならないことがいろいろあるでしょうが、それがひと段落して、いざグループが活動しようにもどうしていいかわからないとなれば、私たちが力になります。このようなときには、現地のNAが立ち直ってNAのメッセージを運び続けることができるように、ワールドサービスから支援物資が届くことになっているのです。

ワールドサービスは、現地のメンバーたちや奉仕を任されたしもべたちと直接協力して何が必要とされているのかをはっきりさせたいと、支援物資が現地のグループやサービス機関のもとに確実に届くようにしています。危機に瀕したNAに対しては、メンバーやグループ、サービス機関がそれぞれに直接支援しようとしてもうまくいくとはかぎりません。だからこそ、NAワールドサービスに献金していただくことが直接の効果をもたらす方法になるのです。みなさんの献金によって、現地のグループやサービス機関が必要なものを手にするようになるので、回復を求めているアディクトたちはナルコティクス アノニマスにつながるができるというわけです。

援助を求める場合にはworldboard@na.orgへご連絡ください。
献金をされる場合にはwww.na.org/contributeでお願いします。

WCNA 37 スピーカー選考委員



私たちは、WCNAのスピーカー選考に参加してくれるボランティアを現在も募集中です。応募者には、少なくとも5年のグリーンタイムが必要でしょう。この役目を引き受けていただくと、これから数ヶ月(2018年1月~3月)にわたってスピーカー候補者の録音内容を再検討することになります。スピーカー選考委員としてサービスにかかわることに関心のあるメンバーは、www.na.org/wcnaにある書式に必要事項を記入して、2018年2月28日までに応募されるようお願いいたします。

スピーカー選考委員として、サービスにかかわることを希望します。

名前 _____ 名字 _____

住所 _____

国名 _____ 〒郵便番号 _____

グリーン・デイト(グリーンになった年月日) _____ 電話番号 _____

Eメールアドレス _____

応募方法

www.na.org/wcnaにある書式に必要事項を記入して応募。

または、上記の書式をコピーして必要事項を記入し、NAワールドサービスへ郵送。

NA World Service; WCNA 37 Speakers; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA

今も

WCNA 37:あの不思議な力はここに

2018年8月30日～9月2日
アメリカ合衆国フロリダ州オーランド

みなさんの参加を心よりお待ちしております

フロリダ州のオーランドは、アメリカで最も観光客が多い都市です。この楽しさいっぱいの観光地で開催されるナルコティクス アノニマスの第37回ワールドコンベンションに、ぜひご参加ください。フロリダ州各地のメンバーたちは、参加者に心のコもったもてなしをしようと歓迎の準備を進めています。NAワールドコンベンションのことは世界中のメンバーたちがとても楽しみにしているので、みんなで参加すれば今回も多彩な顔ぶれによる盛大なコンベンションになるでしょう。

今すぐ、参加登録を！

これでもう、オーランドでWCNA37に集まった世界中の仲間たちと一緒に回復を祝うことができるでしょう。

どうして、事前に参加登録をするのか？

- ① 事前参加登録制にすることで、NAの資金を無駄に使用することもなくなり、参加者の要望にもうまく応えられるイベントが**企画**できる。
- ② WCNA 37は**参加登録が必要**なイベントであるため、参加登録コーナーへの入場を除き、オレンジカウンティ・コンベンションセンターへの入場には必ず参加登録バッジの表示が求められる。
- ③ 参加登録バッジがあれば、コーヒーハウスのイベントやダンスなど、**チケットのいらぬイベントはどれも入場自由**になる。
- ④ **チケット制によるイベントの座席は、事前の参加登録の日付で指定される**（チケット購入の日付ではない）。
- ⑤ 事前参加登録の受付は2018年7月31日で終了し、これ以降は**125ドルの一般参加登録**となる。
- ⑥ 事前参加登録者は、**木曜日から現地のオリジナルグッズ販売ショップに入場できる**（一般参加登録は、金曜日まで入場できない）。
- ⑦ **2018年7月31日までに事前参加登録をしたメンバーは**（キャンセルをしなければ）、**全員が抽選に応募できる**。当選者2名には、コンベンションを丸ごとタダで楽しめる**パッケージが贈られる**。これで**参加登録費は無料**となり、WCNAの**スペシャル・イベントも全部無料で入場できる**！（ただし、事前に予約したオリジナルグッズは無料にはならない）

ホテルの予約は、お早めに！

ホテルの予約ぐらい自分でできるというメンバーが多いとは思いますが、こちらで団体予約をしたホテルを利用することがWCNAの運営にとっても役立つのです。ですからWCNAでは、**ぜひ、事前参加登録と併せてこちらでご案内するホテルを予約していただくようお願いいたします**。しかも、**2018年7月31日までに参加登録とホテルの予約をすませると（キャンセルをしなければ）、「3泊無料」になる抽選にも参加できるのです**。当選した2名に対しては、WCNA開催期間中の3日間にかかる部屋代と税金をこちらで肩代わりいたします。さあ、さっそくホテルを予約して抽選に参加しましょう！

エンターテイメント

これは、WCNA 37を盛り上げる構成にしようとして張り切っています。まだ交渉中のイベントもいくつかありますが、木曜の「ブルース・ランチ」、金曜午前の「ジャズ・ブランチ」、金曜夜の「コメディ・ショー」、「コーヒーハウス」については www.na.org/wcna で詳しい情報がわかるようになっています。なお、このようなチケット制によるイベントの座席は、チケット購入の日付ではなく、事前登録の日付に基づいて指定されます。良い席をとるためにも、早めに参加登録をしておきましょう。

参加登録や、ホテルの予約情報、プログラム、エンターテイメントなど、WCNA 37に関することは、www.na.org/wcna をご覧ください。



カレンダー

Multiday events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or *The NA Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Australia

Western Australia 9-11 Mar; Western Australia Area Convention; Rise Function Centre, Perth; wana.org.au

Canada

Ontario 16-18 Feb; Toronto Area Convention 10; Marriott Downtown Eaton Centre, Toronto; torontonaconvention.org/

Prince Edward Island 28-29 Apr; Clean & Straight Group Unity Days 19; Saint Paul's Parish Centre, Summerside; carna.ca

Quebec 2-4 Mar; Youth Convention 22; Hotel Château, Joliette; naquebec.org

Nepal

Chitwan 2-4 Feb; Chitwan Area Convention 2; Narayani Resort Gaidakot, Chitwan; event info: 9865350602

Norway

Trysil 11-18 Mar; Ski&Recovery; Trysil; nanorge.org/arrangementter

Poland

Miętne 23-25 Feb; Regional Group Assembly; Powiatowy Osrodek Sportu w Miętnem, Miętno k/Garwolina; anonimowinarkomani.org

Thailand

Bangkok 2-4 Mar; Thailand Regional Convention 11; Rembrandt Hotel, Bangkok; na-thailand.org/index.html

United States

Alaska 23-25 Mar; Kenai Peninsula Area Women's Spiritual Retreat; Solid Rock Bible Camp, Soldotna; event info: Kenai Peninsula Area; 11312 Kenai Spur Hwy; Unit 71; Kenai, AK 99611

Arizona 9-11 Mar; Mexico Arizona California Convention 9; The Shilo Inn, Yuma; macna.org

California 16-18 Feb; Circle of Sisters 21; Hyatt Regency San Francisco Airport, Burlingame; circleofsisters.org

2) 29 Mar-1 Apr; Northern California Regional Convention 40; San Jose Convention Center, San Jose; norcalna.org

3) 30 Mar-1 Apr; San Diego/Imperial Counties Regional Convention 33; Manchester Grand Hyatt, San Diego; sandiegona.org/san-diego-imperial-counties-regional-convention

Florida 23-25 Mar; First Coast Area Convention; Lexington Hotel & Conference Center, Jacksonville; firstcoastna.org/index.htm

2) 13-15 Apr; North Dade Area Convention Addressing Recovery 4; Ramada Plaza Marco Polo Beach Resort, Sunny Isles Beach; speaker tape deadline: 31 Jan; northdadearea.org

Georgia 2-4 Mar; Recovery in Action Newcomer's Event 4; Clarion Suites & Conference Center, Savannah; write: Kickin' It Clean/A Power Greater than Ourselves; Box 5216; Savannah, GA 31414

Idaho 6-8 Apr; Southern Idaho Regional Convention 29; Best Western Inn & Convention Center, Burley; speaker tape deadline: 1 Feb; sirna.org

Indiana 23-25 Mar; Indiana State Convention 25; Wyndham Indianapolis West, Indianapolis; isnacindiana.com

Kansas 27-29 Apr; Mid-America Regional Convention 35; Ramada Topeka Downtown Hotel & Convention Center, Topeka; marscna.net

Kentucky 30 Mar-1 Apr; Kentuckiana Regional Convention 31; Owensboro Convention Center & Hampton Inn, Owensboro; krscna.org

Maryland 13-15 Apr; Chesapeake & Potomac Regional Convention 32; Roland E. Powell Convention Center, Ocean City; cprna.org

Massachusetts 16-18 Mar; Northeast Massachusetts Area Convention 6; Burlington Marriot, Burlington; nerna.org

Michigan 29 Mar-1 Apr; Detroit Area Convention 26; Marriott Renaissance Center, Detroit; michigan-na.org/metro-detroit-region

Minnesota 13-15 Apr; Minnesota Convention 25; DoubleTree, Bloomington; mnnac.org

Missouri 2-4 Feb; Cabin Fever Prevention Convention 26; Lodge of the Four Seasons, Lake Ozark; cabinfeverconvention.org

New Jersey 2-4 Mar; Cape Atlantic Area Convention 28; Stockton Seaview Hotel, Galloway; pearlofrecovery.com

New York 2-4 Feb; In the Spirit of Love 30; Holiday Inn, Waterloo; flana.net

2) 16-18 Feb; Metro Area Convention; Crowne Plaza Hotel, White Plains; nanewyork.org

3) 2-4 Mar; First Stop to Freedom 5; Marriott Long Island, Melville; westernqueensna.org

4) 20-22 Apr; First Buffalo Inner City Convention; Adam's Mark Hotel, Buffalo; nawny.org

North Carolina 2-4 Mar; Freedom by the Sea Convention 17; Sea Trail Golf Resort, Sunset Beach; freedombytheseaconventionofna.com

Ohio 2-4 Feb; Toledo Area Convention 21; Holiday Inn French Quarters, Perrysburg; natoledo.com

Oklahoma 23-25 Mar; Oklahoma Regional Convention 32; Marriott Tulsa Southern Hills, Tulsa; okna.org/okna-activities

Rhode Island 9-11 Feb; Greater Providence Area Convention 9; Crowne Plaza Warwick, Warwick; event info: 401.649.3236; gpana.org/upcoming-convention

Texas 29 Mar-1 Apr; Lone Star Regional Convention 33; DFW Lakes Hilton, Grapevine; lsma.com

Washington 8-11 Mar; Clean & Free Tides of Change; Ocean Shores Convention Center, Ocean Shores; wnirna.org

Wisconsin 2-4 Feb; Greater Milwaukee Unity Convention 21; Hyatt Regency, Milwaukee; namilwaukee.org

NAWS Product Update

2018 JFT Calendar

Get your daily recovery inspiration and encouragement with excerpts from our *Just for Today* book. 4¼" x 5¼" tear-off pages with easel.

Item No. 9500 Price US \$11.75/10.25 €



Afrikaans

Keytags: Welcome – Multi-Year

Item No. AF4100 – 4108 Price US \$0.53/0.47 €

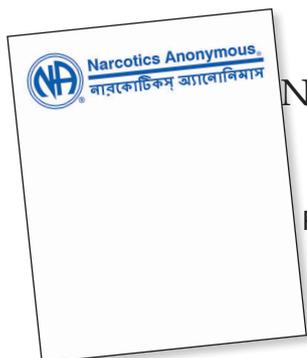


Bengali

NA White Booklet

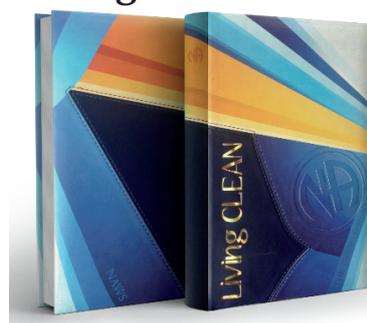
শ্বেত গ্রন্থ

Item No. BE1500
Price US \$0.75/0.65 €



Numbered Editions
&
Special Bundles

Living Clean Numbered Edition



Item No. 1155

Price US \$27.50/19.50 €

2018 Calendar & Living Clean Bundle

Item No. 1155B Price US \$30.00/22.00 €

30th Anniversary Basic Text

Item No. 1103
Price US \$30.50/23.00 €



JFT Journal & 30th Anniversary Basic Text Bundle

Item No. 1103B Price US \$36.00/29.00 €

To Be Discontinued

Sponsorship Gift Edition

Item No. 1131 Price US \$20.90/18.50 €

Danish

IP #29: *En introduktion til NA-møder*

Item No. DK3129 Price US \$0.24/0.21 €

Spanish

Concordance
Line-Numbered
Basic Text

Narcóticos Anónimos

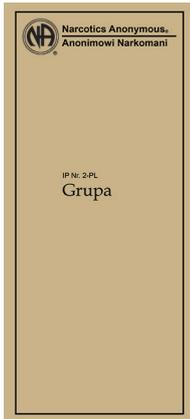
Item No. SP1102LN
Price US \$11.55/10.00 €



Polish

IP #2: *Grupa*

Item No. PL3102
Price US \$0.31/0.26 €



Guiding Principles:

The Spirit of Our Traditions

Los principios que nos guían: el espíritu de nuestras tradiciones

Item No. SP1201 Price US \$11.00/9.70 €

Russian

Living Clean: The Journey Continues

Жить чистыми:

Путешествие продолжается

Item No. RU1150 Price US \$9.75/7.70 €



Ukrainian

IP #14: *Досвід одного залежного: прийняття, віра та зобов'язання*

Item No. UA3114 Price US \$0.24/0.21 €



IP #23: *Залишатись чистим після випуски*

Item No. UA3123 Price US \$0.24/0.21 €





Coming Soon!

Arabic

It Works: How & Why

إنه ينجح

Item No. AR1140 Price US \$9.00/7.90 €

Bahasa Melayu

Basic Text (Fifth Edition)

Narcotics Anonymous

Item No. BM1101 Price US \$7.90/6.90 €

Statement of Ownership, Management, and Circulation

The NA Way Magazine (ISSN 1046-5421) is published quarterly. There is no subscription charge for this publication. The office of publication is at 19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311. Mailing address is 19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311. The editor is De Jenkins. *The NA Way Magazine* is owned by NAWS, Inc., a nonprofit corporation, and there are no other bondholders, mortgagees, or security holders. The status of this corporation has not changed during the twelve months preceding this filing.

Extent and nature of circulation	Average No. of copies in preceding 12 months	Actual No. copies as of Oct 17
a. Total number of copies (Net press run)	12,688	13,250
b (1) Mailed outside county subscription	3,385	4,216
b (2) Mailed in-county subscription	35	40
b (3) Distribution outside the mails	8,905	8,495
c. Total requested distribution	12, 253	12,751
d (4) Free or nominal rate distribution	234	279
e. Total free or nominal rate distribution	234	279
f. Total distribution	12,559	13,030
g. Copies not distributed (office uses)	129	220
h. Total	12,688	13,250
i. Percent requested circulation	98.2%	97.7%
a. Requested electronic copies (e-subscription)	21,111	21,312
b. Total requested print + electronic distributions	33,436	34,063
c. Total print + electronic distributions	33,670	34,342
d. Percent requested circulation	99.3%	99.1%

Certified, correct, complete

